

第 25 回全国女性漁業者グループリーダー研究集会を開催

設立から 60 周年、今、原点に立ち返って女性部活動を考える

J F 全漁連と J F 全国女性連は 10 月 2 日、「第 25 回全国女性漁業者グループリーダー研究集会」を東京・千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で開催した。

今回の研究集会テーマは「設立から 60 周年、今、原点に立ち返って女性部活動を考える」。J F 全国女性連が 2019 年 9 月で設立 60 周年を迎えたことを受け、女性部活動が地域を元気にした事例紹介や、水産研究・教育機構の三木奈都子主幹研究員による講演のほか、「森は海の恋人」の著者でもある N P O 法人森は海の恋人の畠山重篤理事長の記念講演が行われた。



【國分会長挨拶】



【水産庁 研究指導課長 来賓挨拶】

研究集会の合間には、60 周年記念事業マルシェのプレイベントとして、各地の女性部・漁村女性等が加工した水産加工品 11 品の即売会が行われ、販売開始約 10 分で完売してしまうほどの盛り上がりとなった。



【プレマルシェ出品】

困ったときこそ転換期！

三木主幹研究員は、自身の講演で貯蓄運動から始まった女性部活動の歴史を振り返り、生活改善運動、環境保全のための石けん使用推進運動、魚食普及活動など、女性部がこれまで時代の変化に対応しつつ活動を広げてきたことを評価し、新たな時代への期待と展望について述べた。

部員の減少や高齢化などの課題を抱える女性部だが、「困ったときこそ転換期」と三木氏。JF全国女性連フレッシュ・ミズ部会などを例に挙げ、自発的な活動意欲がある女性たちの発掘・サポート、女性目線のアイデアや連携が大事と語る。「まずはアイデアを言葉にして、小さいことからやってみる。うまくいかないこともあると理解することも大切」と、今後の活動の発展に向けたアドバイスを述べた。

また、価値観が多様化し、自然や地域に根差した活動へのまなざしが変わりつつある今、

「若手へのアプローチや、他地域・他分野とのネットワークがさらに重要になる」とし、「これまで以上に全国レベルでの集まりの場が必要」と全国の女性部が繋がる場となっている

る JF 全国女性連にエールを送った。



【令和に向けて漕ぎ出そう！とエールを送る三木氏】 【活発に意見交換・質問をする参加者】

三木氏の講演に先立ち行われた事例報告では、「産地市場の自主運営に取り組んで～究極の朝獲れを届けます～」をテーマに JF 四日市市富洲原支所市場運営グループの田中雅子さん、「G活動で浜の元気を取り戻そう～白浜浦漁協女性部の復興への取組～」をテーマに JF 釜石湾白浜浦女性部の佐々木淳子さんから発表が行われた。東日本大震災後、視察を行ったことが活動の後押しとなったという佐々木さんだが、発表が終わると、会場に居合わせた当時の視察先の女性部から「その後の活動の発展に、私たちも勇気もらった」との声。「これからも頑張りましょう！」と励ましあい、地域を越えた繋がりの大切さを参加者たちで共有した。



【事例報告】

「森は海の恋人」 畠山理事長が記念講演

宮城県でカキ養殖を営む漁業者でもある畠山理事長は、今年で 31 年目になる「森は海の恋人」運動について、その経緯と意義について講演を行った。

「活動を始めた当初は、森に木を植えるとなぜ海が豊かになるのか、誰も説明できなかった」という畠山氏。肌で感じる海と森の関係を紐解くために、疑問に思うことはとことん追求し、今ではその根拠をしっかりと語れるまでになった。「海のことを考えるときに海だけ見ていてはダメ」と、広い視野で海の課題に向き合うことの重要性を説いた。

畠山さんの親しみやすい漁師としての姿が垣間見え、少し難しい話題も笑いを交えてわかりやすく解説した。環境保全活動を重要な活動の一つとしてきた女性部にとって共感が多い講演となった。



【健康寿命 100 年体操】



【講演する畠山理事長】